

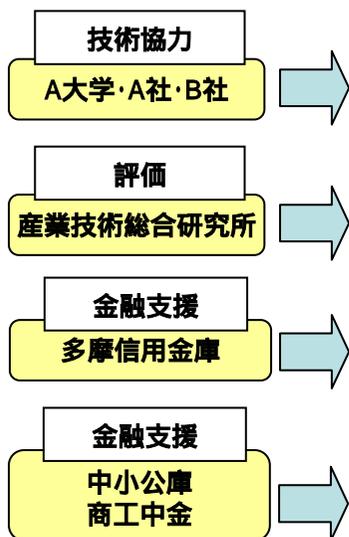
地域	東京都西多摩郡	認定日	平成19年2月21日	3 - 18 - 063
事業分類	製造(精密機械)	テーマ分類	検査・計測	

事業名: 液体クロマトグラフ法による分離精製装置の開発・販売  
(セミプロセス液クロの開発・販売)

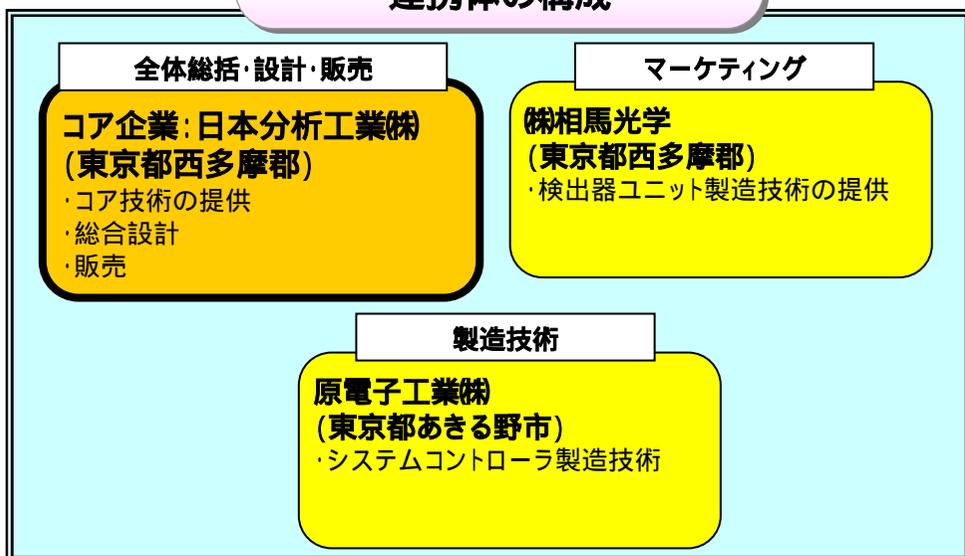
### 事業概要(新規性、市場性等)

- ・コア企業の有する溶媒循環型分離分析技術を活用し、従来比で数10倍規模の分離精製能力を有する液体クロマトグラフ法を用いた分離精製装置の開発・製造を行う。
- ・昨今の先端技術の進歩に伴い、生理活性物質や高機能材料の2分野において上記の分離精製能力が求められているが、省材料で高い分解性能等を有するものがこれまでは存在せず、既存の少量分離精製可能装置に繰り返し試料を注入することで分離精製を行っているのが現状である。本件はこのニーズに対応し、分離精製時間の短縮、省材料化を実現するもの。
- ・ユーザーニーズを汲み取った製品であり、有機ELやカーボンナノチューブといった今後期待される素材も対応可能で、市場性が高い。

### 事業推進体制

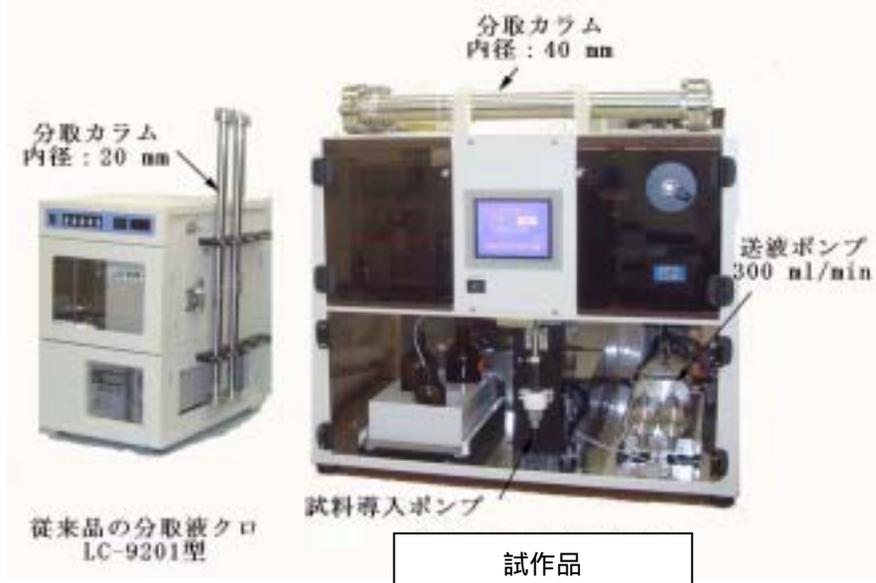


### 連携体の構成



### 支援予定メニュー

補助金  
低利融資



## 連携のきっかけ、特徴

- ・日本分析工業(株)代表者大栗氏と(株)相馬光学代表者浦氏、及び原電子工業(株)代表者鈴木氏は、いずれも日本電子(株)出身者である。
- ・日本分析工業は昭和58年より、相馬光学と紫外検出器等の取引を開始。また、平成13年東京都の創造的技術開発助成事業で指紋検出装置の一部を共同開発研究を行った実績もある。
- ・大栗氏は昭和40年に日本電子(株)を退職し、日本分析工業を設立したが、日本電子(株)出身者が集まるパーティーで昭和60年に鈴木義徳社長の面識を得、直ちにオートリサイクラー、リピートインゼクターなどのプログラム商品の取引関係が開始された。また、平成11年東京都の創造的技術開発助成事業でハードディスク汚染物質の自動分析装置の一部にて共同開発研究を実施している。
- ・なお、(株)相馬光学と原電子工業(株)との取引関係は、昭和62年のパルスモータ用のコントローラがきっかけ。
- ・従来から連携企業同士がそれぞれの強みを生かして製品開発を行ってきており、本計画はその延長線上に存在するもの。

## コア企業の会社概要

企業名・代表者	日本分析工業株式会社 代表取締役 大栗 直毅	
所在地	東京都西多摩郡瑞穂町武蔵208	
創業	1965年9月	
資本金・従業員数	6220万円	25名
業種	化学分析装置製造販売	
T E L	042-557-2331	
F A X	042-557-2336	
ホームページ	<a href="http://www.jai.co.jp/">http://www.jai.co.jp/</a>	
e - m a i l	n-oguri@jai.co.jp	

## PR等その他の情報

- ・2007年8月分析展、2008年3月日本化学会付設展示会及び2008年8月分析展に出展を予定